

TAC建築士講座 無料セミナー

一級建築士 設計製図
「自由度の高い本試験」への対策！

セミナーの内容

1. 近年の本試験の傾向

2. 自由度の高い本試験への対策

3. TACの取り組み

(「本試験への対応」の紹介・早期講義カリキュラムの説明)

4. 質問会(匿名OK)

1. 近年の本試験の傾向

【近年の本試験の傾向】

令和元年「美術館の分館」 10月試験

I. 設計条件

この課題は、既存の美術館(本館)の隣地に、「分館」を計画するものである。この「分館」は、美術、工芸等の教育・普及活動として、市民の創作活動の支援、体験学習講座や創作活動で作製した作品等の展示、企画展等に使用するものとし、本館とともに市民の文化・芸術・創造の拠点となることを目的として計画する。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、「敷地図」とおりである。
- 敷地全体は平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。なお、隣地から敷地へは自由に行き来できるものとする。
- 敷地は、第一種住居地域及び準防火地域に指定されている。
- また、建蔽率の限度は60%、容積率の限度は200%である。

①課題発表時に階数指定

2. 建築物

- 構造種別は自由とし、地上3階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計は、2,000㎡以上2,400㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、コナ、屋外階段、屋上設備スペース、屋上庭園(植栽スペース)、バルコニー、ピロティ等を屋内的用途(ピロティ等)については、床面積に算入しない。また、屋上庭園(植栽スペース)については、床面積に算入しない。また、屋上庭園(植栽スペース)については、床面積に算入しない。また、屋上庭園(植栽スペース)については、床面積に算入しない。
- 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に規定する特別特定建築物に該当し、「建築物移動等円滑化基準」を満たすものとする。

②床面積の範囲より算定

④「計0㎡以上」、「0㎡以上」、「適宜」、「約0㎡」

部門	室名	特記事項	床面積	
教育・普及部門	展示室A～C、ホワイエ及び各種アトリエは、直天井とせず天井を張るものとし、天井高は3m以上とする。	・各展示室には、「前室(チケットの確認等)」及び「倉庫」を設ける。 *各展示室の床面積には、前室及び倉庫を含まないものとする。		
	多目的展示室	・展示のほか講演会等に使用する。 ・直天井とせず天井を張るものとし、天井高は6m以上とする。	200㎡以上*	
	展示室A	・光やその陰影に配慮した彫刻等の作品を展示できるようにする。	約100㎡*	
	展示室B	・映像、音響等に配慮した作品を展示できるようにする。	約100㎡*	
	展示室C	・絵画、書道等の作品を展示できるようにする。	約50㎡*	
	ホワイエ	・快適な空間とする。	適宜	
	創作アトリエ	・市民が参加する体験学習講座等を行う。 ・屋上庭園に直接行き来できるようにする。 ・専用の「準備室」及び「倉庫」を設ける。 ・作業机、椅子、流し等を設ける。	計150㎡以上	
	アトリエA・B	・市民の創作活動の場として利用する。	各約50㎡	
	アトリエC・D	・作業机、椅子、流し等を設ける。	各約25㎡	
	準備室	・アトリエA～Dの共用として、1室設ける。	約50㎡	
共用部門	講師控室	・体験学習講座等の講師が使用する。	適宜	
	吹抜け	・短辺を1/2以上の整形(開口面積は40㎡以上)とし、2層の吹抜けとする。	-	
	エントランスホール	・自然採光を確保する。 ・コインロッカーのスペースを設ける。	適宜	
	カフェ	・1階に設け、本館や公園からもアプローチさせる。 ・客席から公園への眺望に配慮する。 ・テーブル、椅子(40席程度)、レジカウンター等を設ける。 ・「厨房」並びに調理人用の「更衣室」及び「便所」を設ける。	適宜	
	ショップ	・カフェに併設させ、画材、小物等を販売する。	適宜	
	多機能トイレ	・各階に設け、車椅子利用者、オストメイト等に配慮する。	適宜	
	便所	・各階に男性用、女性用を設ける。	適宜	
	管理部門	事務室	・受付カウンターを設け、企画展等のチケットを2人分、発行する。	適宜
		会議室	・更衣及び休憩用スペースを設ける。 ・10人程度が利用できるようにする。	適宜
		荷解室	・展示室に隣接して設ける。	20㎡
屋内ゴミ保管庫		・展示室に隣接して設ける。	適宜	
設備スペース		ポンプ室	・1階に計画し、消火ポンプ(屋内消火栓用)と給水ポンプを設ける。 ・面積は計約120㎡とする。 ・空冷ヒートポンプ、外気処理空調機、電気設備を設置する。	約15㎡
	屋上設備スペース	・機器のメンテナンスに人荷用エレベーターを併設する。		
		・職員等の通用口及び倉庫は、適切に計画する。 ・その他必要と思われる室、什器等は、適宜計画する。		

⑤EHの要求あり

⑥便所の要求あり

⑦ゴミ庫の要求あり

⑨空調等の設備の指定あり

⑩通用口、倉庫の要求あり

3. その他の施設等

- 屋上庭園を、次のとおり計画する。
 - 屋外展示スペースとして創作アトリエ等において作製した彫刻等を展示し、休憩スペースとしても利用する。
 - 3階の床レベル(2階の屋上)に、10m四方以上を確保し、150㎡以上設ける。
 - 樹木(樹高3m未満)を植栽するため、客土500mmの部分を100㎡以上確保し、庭園内の通路と客土の上端を同レベル程度として計画する。
 - 屋内から屋外への出入りについては、バリアフリーに配慮する。
 - 展示スペース、植栽、通路、屋外ファニチャー(ベンチ等)等を設ける。
- 屋外テラスを地上に30㎡以上設け、公園への眺望に配慮する。また、屋外ファニチャーを設ける。
- トラックヤードは、2tトラック(6.2m×2m程度)が駐車できるものとし、荷解室の搬入口に近接して設ける。
- 駐車場は、平面駐車とし、車椅子利用者用として2台分、サービス用として1台分のスペースを設ける。なお、来館者用及び職員用の駐車場については近隣の「駐車場」を利用し、駐輪場については本館の「駐輪場」を利用するものとする。

4. 留意事項

- 建築計画、構造計画及び設備計画については、次の点に特に留意して適切に計画する。
- 公園への眺望に配慮する。
 - 分館と本館との来館者の動線を適切に計画する。
 - 教育・普及部門の展示関連諸室とアトリエ関連諸室を利用形態に応じて適切に計画する。
 - 計画において、要求室の天井高さ又は天井ふとを適切に計画する。
 - 日照負荷抑制が必要な室のガラスは、Low-Eガラスを使用する。
 - 垂直エレベーター及び人荷用エレベーターを適切に計画する。
 - 設備機器の搬入及び設置に配慮した計画とする。
 - 建築物の外壁の設備を適切に計画する。必要部分には、動式のスプリングラッチ設備等を設けないものとし、また、「避難上の安全の検証」を行わないものとする。
 - 地上に通ずる2以上の直通階段を適切に計画する。また、必要に応じて、「敷地内の避難上必要な通路」を適切に計画する。

⑧EVの具体的な要求あり

II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。なお、各図面には、計画上留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図 配置図 1/200	① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 主要寸法(スパン割り及び床面積等の算出に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積 ニ. 建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分の位置及び防火設備、防火区画に用いる防火設備の位置及び種別 ホ. 設備シャフト(パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)及び電気シャフト(EPS))の位置 ヘ. 断面図の切断位置 ト. 要求室の特記事項に記載している室、スペース、什器等 チ. 屋上設備スペースの位置(設置した下階に、適切に平面図に点線で表示) ② 1階平面図・配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出口(▲で表示)、通用口・搬入口(△で表示) ロ. 通路、植栽等 ハ. 屋外テラス(面積、屋外ファニチャー等) ニ. 「敷地内の避難上必要な通路」(ある場合のみ)の経路と幅
(2) 2階平面図 1/200	③ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から2の直通階段に至る歩行経路を図示し、その一に至る歩行距離及び重複区間の長さ ロ. 1階の屋根、庇等となる部分
(3) 3階平面図 1/200	④ 3階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. ③イ. に同じ ロ. 2階の屋根、庇等となる部分 ハ. 屋上庭園(面積、客土範囲、展示スペース、植栽、通路、屋外ファニチャー等)
(4) 断面図 1/200	① 切断位置は、多目的展示室を含み、立体構成がわかる断面とする。なお、水平方向及び鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 建築物の最高の高さ(断面図に図示されている場合のみ)、階高、天井高、1階床高、2階床高、3階床高及び主要な室名を記入する。 ③ 基礎、壁、梁及びスラブの断面を図示する。 ④ 屋上設備スペース(ある場合のみ)を図示する。

【近年の本試験の傾向】

令和3年「集合住宅」

④「0㎡以上」、「約0㎡」、「適宜」

I. 設計条件

この課題は、ある都市の市街地の鉄道駅に近い敷地に、テナントを併設した賃貸集合住宅を計画するものである。

計画に当たっては、特に、次のことが求められている。

- 住宅部門の各住戸の居室は、通風・採光、遮音等、よりよい住環境を考慮した計画とする。
- 住宅部門の住戸A及び住戸Bは、在宅勤務を考慮した計画とする。
- 住宅部門の入居者同士が交流できる共用室を設ける。
- テナント部門は外部から利用しやすい計画とともに、住宅部門との動線やプライバシーに配慮した計画とする。

③部門あり

1. 敷地及び周辺条件

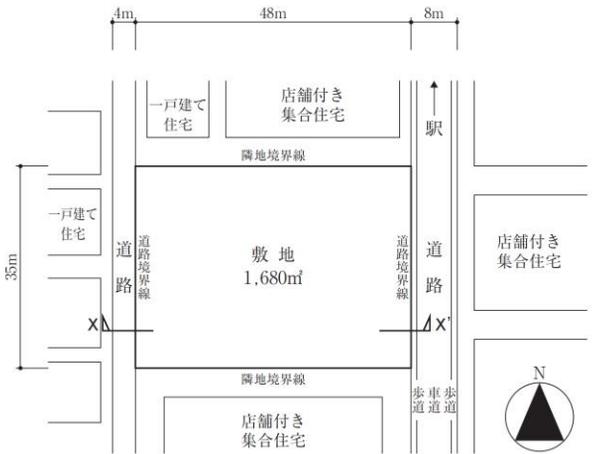
- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、「敷地図」のとおりである。
- 敷地は平坦で、敷地と道路の路面の中心、隣地及び道路の反対側の敷地については、高低差はない。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地は、第一種住居地域(道路高さ制限及び隣地高さ制限における斜線勾配はそれぞれ1.25とする。)及び準防火地域に指定されている。また、建蔽率の限度は70%(準防火地域内における耐火建築物等の加算を含む)、容積率の限度は300%である。これら以外に、地域、地区等及び特定行政庁による指定、許可等並びに日影による制限はない。
- 電気、ガス、上下水道等は、敷地内に敷設可能である。なお、杭打ちの必要はない。
- 地盤は、軟弱地盤である。また、気候は温暖であり、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。また、水害の危険がない地域である。

②容積率から算定

2. 建築物

- 地上5階建てとし、構造種別は鉄筋コンクリート造とする。なお、一部を他の構造種別と併用してもよい。

①課題発表時に階数未定



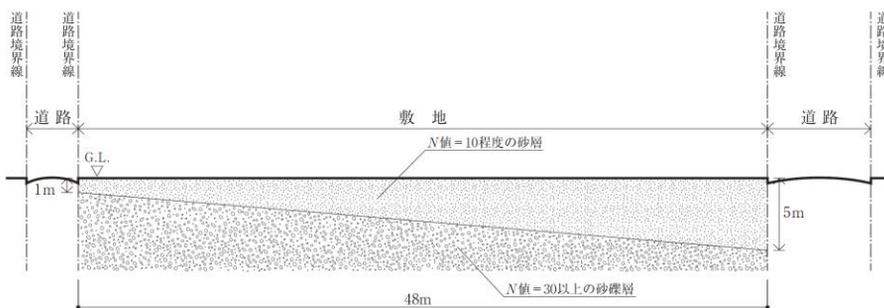
敷地図 縮尺=1/800

- 要求室
下表の室等は、全て計画する。

部門	室名等	特記事項	床面積	
住宅部門	住戸A	・基準階(3~5階)の各階に3戸以上(計9戸以上)計画する。 ・室構成は、2LDKとする。 ・在宅勤務を考慮したスペースを設ける。 ・バルコニーを設ける。	1戸当たり 約 75 ㎡	
	住戸B	・基準階(3~5階)の各階に2戸以上(計6戸以上)計画する。 ・室構成は、1LDKとする。 ・在宅勤務を考慮したスペースを設ける。 ・バルコニーを設ける。	1戸当たり 約 50 ㎡	
	住戸C	・1階又は2階に計10戸以上計画する。 ・室構成は、1K(ワンルーム)住戸とする。 ・間口は、心々3m以上確保する。 ・バルコニーを設ける。	1戸当たり 約 25 ㎡	
	共用室	・キッチンコーナーを設ける。 ・車椅子使用者が利用できるトイレを設ける。 ・屋上庭園から直接行き来できるようにする。	適 宜	
	エントランス ホール	・風除室を設ける。 ・メールコーナーを設け、住戸数分のメールボックスの他に、宅配ボックスを設置する。	適 宜	
	管理入室	・エレベーターに配慮する。	適 宜	
	ゴミ保管庫	・入居者1戸当たり1台以上を確保し、収集日には管理人が所定の位置に運ぶものとする。	15㎡以上	
	駐輪場(1)	・入居者用として屋内に25台分のスペースを設ける。 ・駐輪方式は平置きとする。	適 宜	
	テナント部門	学習塾	・主として、小学校高学年から中学生を対象とする。 ・1室当たり30㎡程度の教室を4室以上設ける。 ・60㎡以上の放課後学習室を設ける。 ・受付及び事務室を設ける。 ・トイレを設ける。	約 400 ㎡
		カフェ	・軽食を提供できる程度の厨房を設ける。 ・トイレを設ける。	50㎡以上
駐輪場(2)		・学習塾受講生用として屋内に15台分のスペースを設ける。 ・駐輪方式は平置きとする。	適 宜	
受水槽室 消火ポンプ室 電気室		・エレベーターは、1台(住宅用9人乗りトランク付き又は13人乗り)以上設ける。 ・採用した設備計画に応じて、「機械室」等を適切に計画する。 ・PS等は、適切に計画する。	⑧EVの具体的な要求あり	
設備	・その他、必要な室等は、適宜計画する。 ・什器等を、適宜計画する。	⑨設備の指定なし		

※⑥トイレ(男女)、バリアフリートイレ、
⑦ゴミ庫、
⑩通用口、倉庫 等の要求なし

- 駐車場は、平面駐車とし、入居者用として5台分(そのうち、1台は車椅子使用者用とする。)のスペースを設ける。なお、建築物内に計画してもよい。



地盤断面図(X-X'断面図) 縮尺=non-scale

【近年の本試験の傾向】

令和6年「大学」

I. 設計条件

この課題は、ある都市の市街地の駅前であり、基礎免震構造を採用した、大学の建築学科棟を計画する。なお、実験棟等の施設については、郊外のキャンパスにあるものとする。

計画に当たっては、特に、次のことが求められている。

- 建築を学ぶうえで、参考(教材)となるような建築物
- 学生や教職員の多様性への配慮及びユニバーサルデザイン
- 大地震等の自然災害が発生した際、防災から72時間程度まで学生・教職員の帰宅困難者の一時滞在に配慮した計画

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、「敷地図」とおりである。
- 敷地は平坦で、敷地と、道路の路面の中心、隣地及び道路の反対側の敷地には、高低差はない。また、歩道の切り開きは、不可とする。
- 敷地及びその周辺は、近隣商業地域及び準防火地域に指定されている。また、建蔽率の限度は80%(所定の加算を含む)、容積率の限度は400%である。
これら以外に、地域、地区等及び特定行政庁による許可等並びに日影による中高層の建築物の制限を受けるものとする。
- 電気、ガス及び上下水道
- 地盤は良好であり、杭打
- 気候は温暖であり、積雪について特別の配慮はしなくてよい。また、水害の危険がない地域である。

2. 建築物

- 階数及び構造種別は自由とする。ただし、地階は設けない。
- 基礎免震構造とする。
- 「高層建築物等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に規定する「建築物」に該当するものとする。

①課題発表時に階数未定、さらに自分で階数設定

3. その他の施設等

- 駐車場は、車椅子使用者として1台分のスペースを設ける。なお、建築物内に設けてもよい。
- 屋上庭園は、次のとおり計画する。
 - 3階の床レベル(2階の屋上)に、面積を50㎡以上(屋根や庇となる部分は除く)確保し、3階のラウンジとの出入口については、段差のない仕様とする。
 - 周辺環境に配慮したうえで、植栽、通路等を設ける。

4. 留意事項

- 製図室、研究室及び教室については、建築基準法上の採光を確保し、かつ、適切に計画する。
- 構造計画については、次の点に留意する。
 - 基礎構造については、地盤条件や経済性を踏まえ、適切な基礎構造を計画する。
 - 耐震性や経済性に配慮し、架構を計画する。
- 設備機器等の搬出入、更新及びメンテナンスに配慮する。
- 延焼ライン(建築物の延焼のおそれのある部分の位置)を記入する。必要に応じて、延焼ライン及び防火区画(面積区画、堅区画等)に要求される所定の防火設備を適切に計画する。
- 地上に通じる2以上の直通階段を適切に計画する。必要に応じて、「敷地内の避難上必要な通路」を適切に計画する。
- 計画に際し、「建築基準法第56条第7項(天空率)」、「建築基準法施行令第5章の3(避難上の安全の検証)」等の規定を適用する場合には、「答案用紙Ⅱ」の裏面にその計算過程及び結果を記入する。

②容積率から算定
③部門なし
④「約0㎡」なし
④室数「0室以上」
⑧E Vの具体的な要求なし
⑨設備の指定なし

要求室等(下表の室等は、全て計画する。)

室名等	特記事項	床面積
	・主に建築学科の学部3年生(定員80人)、4年生(定員80人)及び大学院生(定員80人)の総数240人の学生が使用する。(学部1年生及び2年生は郊外のキャンパスを使用する。)	
	・建築学科の教員の人数は18人であり、研究室は18室以上必要である。	
製図室	・基準階(3階から最上階)の各階に設ける。 ・設計製図の演習や講評会以外にも、製図や模型製作の作業場所等として自由に利用できる室とする。 ・床仕上げ面から天井下面までの高さを、最も低い所で3.0m以上とする。	計700㎡以上
研究室	・基準階(3階から最上階)の各階に設け、合計18室以上計画する。 ・学部4年生及び大学院生が常時在籍するほか、研究及び執務を行う。	1室当たり50㎡以上
会議室	・基準階(3階から最上階)の各階に設け、教職員の会議等に使用する。	適宜
ラウンジ	・基準階(3階から最上階)の各階に設け、学生間の交流や学生と教員の交流の場とする。 ・3階のラウンジは、屋上庭園と直接行き来できるようにする。	適宜
ゴミ保管庫	・基準階(3階から最上階)の各階に設けるほか、1階にゴミを搬出するためのスペースを確保する。	適宜
講堂	・学部3年生、4年生及び大学院生の講義のほか、学内のイベント等にも使用する。 ・段床形式で300席の固定席を設ける。 ・控室を設ける。	適宜
教室	・次の教室(合計4室)を計画する。 ① 学生80人の講義(座学)が可能な室を2室(教室A、教室B) ② 学生50人の講義(座学)が可能な室を2室(教室C、教室D)	適宜
図書室	・建築関連の雑誌・書籍が閲覧できる室とし、書架、閲覧席等を設ける。	100㎡以上
カフェ		50㎡以上
事務室	・事務スペースのほか、受付を設ける。	50㎡以上
防災備蓄倉庫		適宜
	・ <u>その他大学の施設管理、授業運営に必要な室等は、適切に設ける。</u>	
設備	・受水槽及び給水ポンプを設ける。 ・一時滞在(72時間程度)を考慮した受水槽を設けるものとし、右記の床面積を確保する。 ・屋内消火栓用として、 ・電気設備は、キュービクル、PS、DS、EPS等を、適切に設ける。 ・空調室外機、エレベーター、 ・採用した設備計画に応じて、機械室等を適切に設ける。 ・太陽光パネルを屋上に設置する。 ・その他必要な室等は、適切に設ける。 ・什器等を、適宜設ける。	50㎡以上

※⑤エントランスホール、
⑥トイレ(男女)、バリアフリートイレ、
⑦ゴミ庫、
⑩通用口、倉庫 等の要求なし



2. 自由度の高い本試験への対策

「自由度の高い本試験」への対策

設計製図の課題

学習のための課題

(試験のセオリーを学ぶための課題)



本試験のための課題

(本試験に慣れるための課題
= 自由度の高い課題)

何でもアリではない



「自由度の高い本試験」への対策

設計製図の課題

学習のための課題

(試験のセオリーを学ぶための課題)



本試験のための課題

(本試験に慣れるための課題
= **自由度の高い課題**)

【合格の近道は基礎を身に付けること】

- ・課題文の正確な読み取り
- ・シンプルなエスキス
- ・作図の表現・スピード
- ・優先順位をつけた取り組み
- ・チェック能力

※高度な知識・テクニックは不要



「自由度の高い本試験」への対策

①室の床面積「適宜」について

研究室	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設け、合計18室以上計画する。 学部4年生及び大学院生が常時在籍するほか、教員が研究及び執務を行う。 	1室当たり 50㎡以上
会議室	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設け、教職員(20人程度)の会議や学生のゼミ、講師の控室等に使用する。 20人×2㎡=40㎡ 	適宜
ラウンジ	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設け、学生間の交流や学生と教員の交流の場とする。 3階のラウンジは、屋上庭園と直接行き来できるようにする。 1コマくらい? 	適宜
ゴミ保管庫	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設けるほか、1階にゴミを搬出するためのスペースを確保する。 10㎡ 	適宜
講堂	<ul style="list-style-type: none"> 学部3年生、4年生及び大学院生の講義のほか、学内のイベント等にも使用する。 <u>段床形式で300席の固定席を設ける。</u> 控室を設ける。 講堂は1人当たり0㎡? ←スケッチで検討 	適宜
教室	<ul style="list-style-type: none"> 次の教室(合計4室)を計画する。 ① 学生80人の講義(座学)が可能な室を <u>2室(教室A、教室B) 80×1.6=128 × 2室</u> 適宜 ② 学生50人の講義(座学)が可能な室を <u>2室(教室C、教室D) 50×1.6=80 × 2室</u> 	適宜

室の用途ごとに
床面積の目安を覚える
ことが大切だね

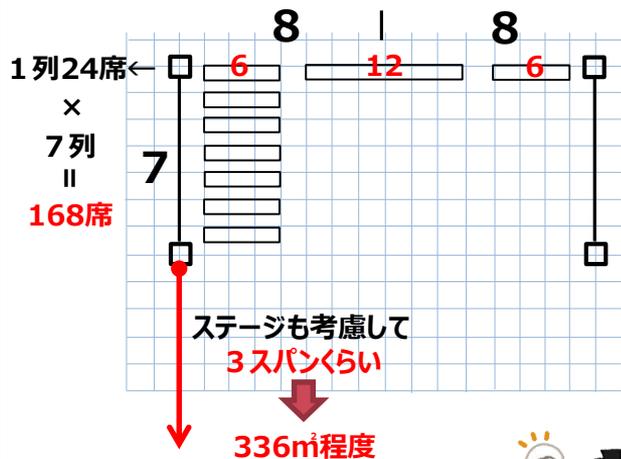


「自由度の高い本試験」への対策

「講堂」の面積検討

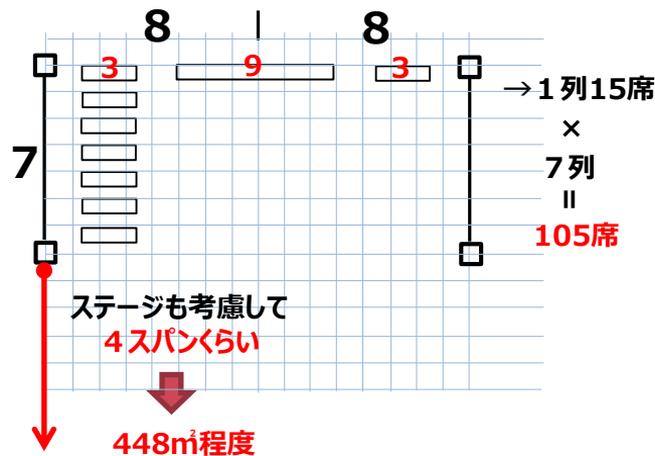
【狭めの座席で計画した場合】

(幅500mm/1席、通路1m)



【ゆとりある座席で計画した場合】

(幅約660mm/1席、通路1.5m)



簡単なスケッチを描いて
検討してみるといいんだね

「自由度の高い本試験」への対策

②「以上」について

製図室	<ul style="list-style-type: none"> ・基準階(3階から最上階)の各階に設ける。 ・設計製図の演習や講習会以外にも、製図や模型製作の作業場所等として自由に利用できる室とする。 ・床仕上げ面から天井下面までの高さを、最も低い所で3.0m以上とする。 	計700㎡ 以上	
研究室	<ul style="list-style-type: none"> ・基準階(3階から最上階)の各階に設け、合計18室以上計画する。 ・学部4年生及び大学院生が常時在籍するほか、教員が研究及び執務を行う。 	1室当たり 50㎡以上	
⋮			
図書室	<ul style="list-style-type: none"> ・建築関連の雑誌・書籍が閲覧できる室とし、書架、閲覧席等を設ける。 	100㎡以上	
カフェ		50㎡以上	
事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・事務スペースのほか、受付を設ける。 	50㎡以上	
防災備蓄倉庫		適宜	
<ul style="list-style-type: none"> ・その他大学の施設管理、授業運営に必要な室等は、適切に設ける。 			
設備	受水槽室	<ul style="list-style-type: none"> ・受水槽及び給水ポンプを設ける。 ・一時滞在(72時間程度)を考慮した受水槽を設けるものとし、右記の床面積を確保する。 	50㎡以上
	消火ポンプ室	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内消火栓用とする。 	適宜
	<ul style="list-style-type: none"> ・電気設備は、キュービクルを屋上に設置する。 		

「約0㎡」は
令和4年以降は
出題がないよ



3. その他の施設等

(2) 屋上庭園は、次のとおり計画する。

- ① 3階の床レベル(2階の屋上)に、面積を50㎡以上

「自由度の高い本試験」への対策

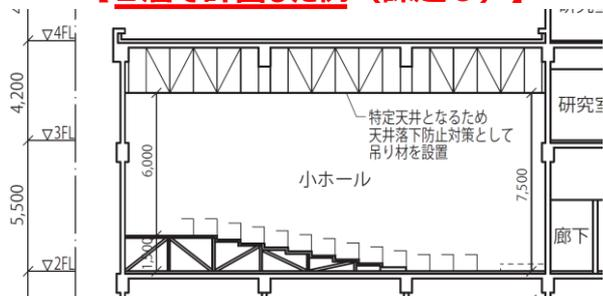
③講堂(段床)の計画

講堂	<ul style="list-style-type: none"> ・学部3年生、4年生及び大学院生の講義のほか、学内のイベント等にも使用する。 ・<u>段床形式で300席の固定席</u>を設ける。 ・控室を設ける。 	適宜
----	--	----

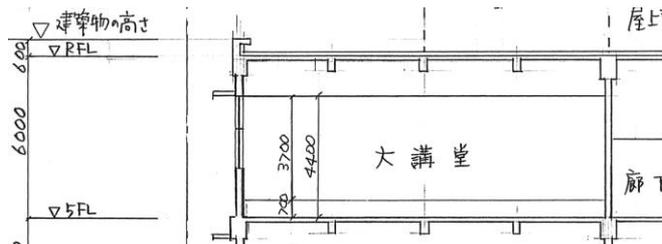
天井高はどうしよう？
標準的な計画を知らないと難しいな。。



【2層で計画した例(課題6)】



【階高を上げて計画した例(課題8)】



「自由度の高い本試験」への対策

④必要な設備や室を自ら考える

・その他大学の施設管理、授業運営に必要な室等は、適切に設ける。			
設備	受水槽室	<ul style="list-style-type: none"> ・受水槽及び給水ポンプを設ける。 ・一時滞在(72時間程度)を考慮した受水槽を設けるものとし、右記の床面積を確保する。 	50㎡以上
	消火ポンプ室	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内消火栓用とする。 	適宜
	<ul style="list-style-type: none"> ・電気設備は、キュービクルを屋上に設置する。 ・空調室外機、エレベーター、PS、DS、EPS等を、適切に設ける。 ・採用した設備計画に応じて、機械室等を適切に設ける。 ・太陽光パネルを屋上に設置する。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・その他必要な室等は、適切に設ける。 ・什器等を、適宜設ける。 			

建物の用途によって必要な室を知っておかないと計画できないね



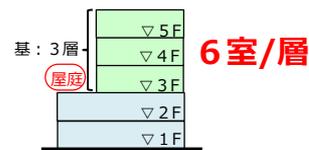
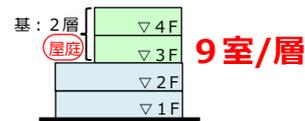
「自由度の高い本試験」への対策

⑤「階数」は自由とする

基準階のボリュームの検討

室名等	特記事項	床面積
	<ul style="list-style-type: none"> 主に建築学科の学部3年生(定員80人)、4年生(定員80人)及び大学院生(定員80人)の総数240人の学生が使用する。(学部1年生及び2年生は郊外のキャンパスを使用する。) 建築学科の教員の人数は18人であり、研究室は18室以上必要である。 	
製図室	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設ける。 設計製図の演習や講評会以外にも、製図や模型製作の作業場所等として自由に利用できる室とする。 床仕上げ面から天井下面までの高さを、最も低い所で3.0m以上とする。 	計700㎡以上
研究室	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設け、合計18室以上計画する。 学部4年生及び大学院生が常時在籍するほか、教員が研究及び執務を行う。 	1室当たり50㎡以上 ×18室
会議室	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設け、教職員(20人程度)の会議や学生のゼミ、講師の控室等に使用する。 	適宜
ラウンジ	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設け、学生間の交流や学生と教員の交流の場とする。 3階のラウンジは、屋上庭園と直接行き来できるようにする。 	適宜
ゴミ保管庫	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設けるほか、1階にゴミを搬出するためのスペースを確保する。 	適宜

1層当たりの
研究室の室数



屋上庭園 50㎡以上

「自由度の高い本試験」への対策

⑤「階数」は自由とする

1コマ50㎡を想定
(8×7)

室名等	特記事項	床面積
	<ul style="list-style-type: none"> 主に建築学科の学部3年生(定員80人)、4年生(定員80人)及び大学院生(定員80人)の総数240人の学生が使用する。(学部1年生及び2年生は郊外のキャンパスを使用する。) 建築学科の教員の人数は18人であり、研究室は18室以上必要である。 	
製図室	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設ける。 設計製図の演習や講評会以外にも、製図や模型製作の作業場所等として自由に利用できる室とする。 床仕上げ面から天井下面までの高さを、最も低い所で3.0m以上とする。 	計700㎡以上
研究室	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設け、合計18室以上計画する。 学部4年生及び大学院生が常時在籍するほか、教員が研究及び執務を行う。 	1室当たり50㎡以上
会議室	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設け、教職員(20人程度)の会議や学生のゼミ、講師の控室等に使用する。20人×2㎡=40㎡ 	適宜
ラウンジ	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設け、学生間の交流や学生と教員の交流の場とする。 3階のラウンジは、屋上庭園と直接行き来できるようにする。 	適宜
ゴミ保管庫	<ul style="list-style-type: none"> 基準階(3階から最上階)の各階に設けるほか、1階にゴミを搬出するためのスペースを確保する。 	適宜

基準階を3層とした場合の
1層当たりの大きさの目安

5コマ/層

6コマ/層

1コマ/層

1コマ/層

0.5コマ/層

屋上庭園 1コマ/層

計 14.5コマ/層 + 5コマ (廊下等)
≒20コマ

「自由度の高い本試験」への対策

「自由度の高い課題」を数多く実施する×

まずは
基礎的な課題の実習を通して「**基礎力(試験のセオリー)**」を
習得後、自由度の高い課題や過去問で「**本試験対応力**」を！

3. TACの本試験への対応

3. TACの令和6年本試験への対応

「階数自由」への対応

TAC特別課題

2. 建築物

- (1) 階数及び構造種別は自由とする。
- (2) 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に規定する「建築物移動等円滑化基準」を満たすものとする。ただし、主要な階段及び主要なエレベーターについては、「建築物移動等円滑化誘導基準」を満たすものとする。

ズバリ一致!



- (3) 要求室
下表の室等は、全て計画する。

ズバリ一致!



設置階	室名等	特記事項	床面積
基準階(3階から最上階)	教室	・基準階(3階から最上階)の合計で12室設ける。 ・教室型とし、教壇、机、椅子(40席程度/1室)を設ける。	1室当たり 約80㎡
	セミナー室	・基準階(3階から最上階)の合計で12室設ける。 ・少人数での討論会等を行う。	1室当たり 約50㎡
	研究室	・基準階(3階から最上階)の合計で24室設ける。	1室当たり 約25㎡
	休憩コーナー(1)	・基準階(3階から最上階)の各階に設ける。	適宜

本試験では、建築物について「階数自由」の設計条件で出題されました。
TACでは「特別課題」において「階数自由」の基準階タイプの出題をしており、基準階についても本試験と同様の「3階から最上階」の条件で学習していました。



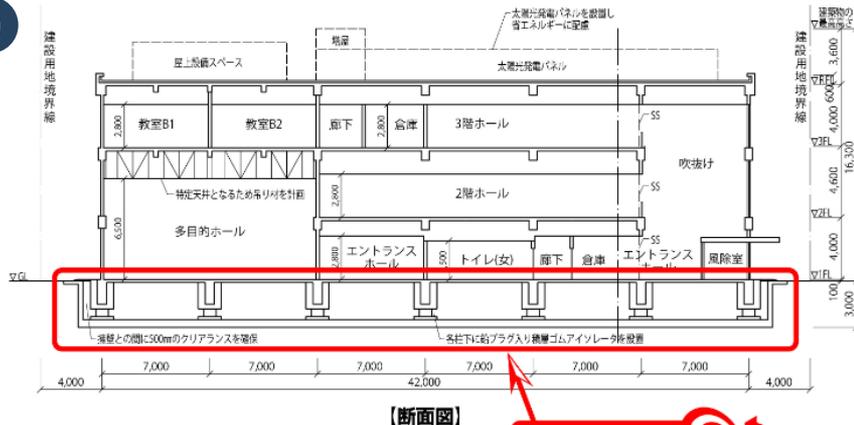
受講生の声 受講生Sさん

試験が「階数自由」だったこともあり、特別課題はかなり役立ちました!

3. TACの令和6年本試験への対応

「基礎免震」への対応

TAC課題9



本試験では、大地震時に建築物の機能が維持できる構造計画として「基礎免震構造」とすることが求められました。
TACでは「課題9」で「基礎免震構造」の出題をしており、その際に計画上の留意点や図面上の表現（平面図・断面図）を学習していました。



受講生の声

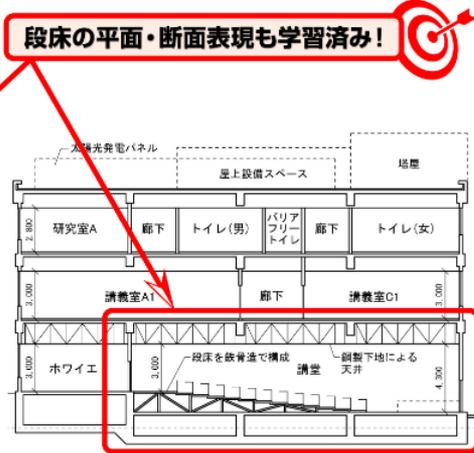
受講生Aさん

免震基礎については、講義や講義録で詳細に説明していただいたおかげで難なく対応できました！

3. TACの令和6年本試験への対応

「講堂(段床)」への対応

TAC課題4



段床の平面・断面表現も学習済み!

本試験では、「段床形式の大空間」の計画が求められました。
TACでは上記の課題の他、「課題6」、「応用課題6」、「課題8」の合計4課題で学習していました。



受講生の声 受講生Kさん

段床式の大空間は課題で何度も解いていたので、十分対応できました!

4. 早期講義カリキュラム等

4. 早期講義カリキュラム等

▶ 学習イメージ



課題数

早期講義

課題数

3課題(基礎課題) + 9課題(本課題) + 6課題(宿題課題)※未定

本講義

課題数

1課題(作図練習課題) + 9課題(本課題) + 5課題(応用課題)※未定

4. 早期講義カリキュラム等

総合設計製図本科生 概要

課題発表前までに、
合格レベルの設計力・作図力を身に付ける指導

- 早期(3月～7月)
TACオリジナル課題等による実習で「基礎力」、「本試験対応力」を身に付けます。
 - 課題発表後(7月～10月)
発表された建物用途に特化した「実践的な学習」を行います。
- ※作図の基礎も学習しますので、初めて設計製図試験を受験される方も安心です。

4. 早期講義カリキュラム等

■ 教室講座：講義時間9:30～19:00(休憩1時間含む)

昨年からの変更点：講義時間を1時間延長

[早期講義 日程表] ※早期講義はWeb受講、本科から教室・オンラインライブ受講も可能

	仙台校	新宿校	池袋校	渋谷校	八重洲校	立川校	町田校	横浜校	大宮校	名古屋校	梅田校	なんば校	福岡校	Web 視聴開始日
講義1	4/5(土)	3/16(日)	3/23(日)	3/29(土)	3/23(日)	4/13(日)	3/23(日)	3/29(土)	3/30(日)	3/29(土)	3/23(日)	3/30(日)	3/29(土)	3/21(金)
講義2	4/19(土)	3/23(日)	3/30(日)	4/5(土)	3/30(日)	4/20(日)	3/30(日)	4/5(土)	4/6(日)	4/5(土)	3/30(日)	4/6(日)	4/5(土)	3/23(日)
講義3	4/26(土)	3/30(日)	4/6(日)	4/12(土)	4/6(日)	4/27(日)	4/6(日)	4/12(土)	4/13(日)	4/12(土)	4/6(日)	4/13(日)	4/12(土)	3/30(日)
講義4	5/10(土)	4/13(日)	4/20(日)	4/26(土)	4/20(日)	5/11(日)	4/20(日)	4/26(土)	4/27(日)	4/26(土)	4/20(日)	4/27(日)	4/26(土)	4/13(日)
講義5	5/17(土)	4/20(日)	4/27(日)	5/3(土)	4/27(日)	5/18(日)	4/27(日)	5/3(土)	5/4(日)	5/3(土)	4/27(日)	5/4(日)	5/10(土)	4/20(日)
講義6	5/24(土)	4/27(日)	5/4(日)	5/10(土)	5/4(日)	5/25(日)	5/4(日)	5/10(土)	5/11(日)	5/10(土)	5/4(日)	5/11(日)	5/17(土)	4/27(日)
講義7	5/31(土)	5/11(日)	5/18(日)	5/24(土)	5/18(日)	6/1(日)	5/18(日)	5/24(土)	5/25(日)	5/24(土)	5/18(日)	5/25(日)	5/24(土)	5/16(金)
講義8	6/7(土)	5/25(日)	5/25(日)	5/31(土)	5/25(日)	6/8(日)	5/25(日)	5/31(土)	6/1(日)	5/31(土)	5/25(日)	6/1(日)	5/31(土)	5/25(日)
講義9	6/14(土)	6/1(日)	6/1(日)	6/7(土)	6/1(日)	6/15(日)	6/1(日)	6/7(土)	6/8(日)	6/7(土)	6/1(日)	6/8(日)	6/7(土)	6/1(日)
講義10	6/21(土)	6/15(日)	6/15(日)	6/21(土)	6/15(日)	6/22(日)	6/15(日)	6/21(土)	6/22(日)	6/21(土)	6/15(日)	6/22(日)	6/21(土)	6/15(日)
講義11	6/28(土)	6/22(日)	6/22(日)	6/28(土)	6/22(日)	6/29(日)	6/22(日)	6/28(土)	6/29(日)	6/28(土)	6/22(日)	6/29(日)	6/28(土)	6/22(日)
講義12	7/5(土)	6/29(日)	6/29(日)	7/5(土)	6/29(日)	7/6(日)	6/29(日)	7/5(土)	7/6(日)	7/5(土)	6/29(日)	7/6(日)	7/5(土)	6/29(日)

4. 早期講義カリキュラム等

[早期講義 カリキュラム]

※カリキュラムは変更となる場合があります

講義	課題	講義内容(予定)
1	課題1	・試験概要 ・法規、構造、設備の基礎知識 ・作図実習
2	課題2	・エスキス実習 ・作図実習
3	課題3	・課題実習（講義1、2を踏まえた実習）
4	課題4	・課題実習 ・エスキスの手順解説、答案例の解説
5	課題5	
6	課題6	
7	課題7	・課題実習 ・エスキスの手順解説、答案例の解説
8	課題8	
9	課題9	
10	課題10	・課題実習 ・エスキスの手順解説、答案例の解説
11	課題11	・ 模擬試験 による実力確認 ・エスキスの手順解説、答案例の解説
12	課題12	・課題実習 ・エスキスの手順解説、答案例の解説

4. 早期講義カリキュラム等

[早期講義 課題用途ランナップ(予定)]

ブロック	講義	用途	タイプ
1	講義1	コミュニティセンター	低層階
	講義2		低層階
	講義3		低層階
2	講義4	図書館	低層階
	講義5	スポーツ施設(プール)	低層階
	講義6		低層階
3	講義7	集合住宅	基準階
	講義8		基準階
	講義9	高齢者施設	基準階
4	講義10	子育て系	低層階
	講義11		低層階
	講義12		低層階

4. 早期講義カリキュラム等

[学習メディア]

 **教室講座**  Webフォロー付



教室にて講師が直接指導！
受講生10～15名に1名講師がつかます。



- ▶ 少人数なので密な指導を受けられました。(Mさん)
- ▶ 他の人の図面をみる機会が多く、プランの参考になりました。(Uさん)
- ▶ 他スクール経験者ですが、TACはダラダラと時間が長くなく効率的に講義が進みます。(Hさん)
- ▶ 質問に対して毎回時間をかけて丁寧に教えてもらえました。(Fさん)

 **Web通信講座**



Web講義と丁寧な添削指導で対策を進めます。
オンラインスクリーニングで他の受講生の図面を見る機会もご用意しました。

添削答案
デジタル
返却導入！



- ▶ 細かく添削してくれるので、課題に意欲的に取り組めました。(Kさん)
- ▶ 他スクールの映像講義では単調でよく居眠りしてしまっていた私ですが、TACのWeb講義はわかりやすく楽しかったです。(Mさん)
- ▶ Web講義は非常にわかりやすい。(Yさん)
- ▶ 講義録はとても詳しく、ポイントがしっかり詰まっていた有用だった。(Mさん)

[教室開講校舎(設計製図講義)]

土曜クラス: 仙台校・水道橋校・新宿校・池袋校・渋谷校・横浜校・名古屋校・京都校・梅田校・なんば校・広島校・福岡校

日曜クラス: 札幌校・新宿校・池袋校・八重洲校・立川校・町田校・横浜校・日吉校・大宮校・津田沼校・名古屋校・

京都校(新設)・梅田校・なんば校・神戸校・広島校・福岡校

水曜クラス: 新宿校・梅田校・オンラインライブクラス

4. 早期講義カリキュラム等

[オンラインライブ通信講座] ※水曜クラス

- 1 担任大屋のもと**教室と同じスケジュール**で講義・実習を実施
- 2 誰ひとり取り残さない！実習中は**個別ルーム**で自由に質問OK
- 3 提出図面を用いて**課題のポイント**やミスリストは全体で共有



オンラインライブ通信講座

Webフォロー標準装備

学科対策

設計製図対策

*対象コースは限定されます。

自宅がTACの教室に！専用の学習プラットフォームを活用し、
ライブのよさを最大限生かした講義を展開します。



メリット

- 教室のよさとWebのよさの
いいとこどり
- Webテストやリアクション・
コメント機能等での
参加型の講義
- 疑問はその場ですぐ解決
- モチベーションを維持できる
- Webフォロー付きだから
休んでしまっても
後日Web講義を視聴できる

4. 早期講義カリキュラム等

[フォロー制度]

クラス振替出席フォロー

ご都合により出席できない場合、教室講座の他のクラスに出席できます。
 ※定員締切クラスは除きます。 ※当日実施した答案の提出はできません。

Webフォロー

いつでも、どこでも、何度でも繰り返し学習できる利便性抜群の映像学習ツールです。高速再生機能など便利な機能が充実！スマホや専用アプリでの視聴もできます。

※ Web フォローの動作環境及び注意事項は TAC WEB SCHOOL (<https://ws.tac-school.co.jp/taiken>)にてご確認ください。



オンラインスクーリング

大好評

TACは通信生も孤立させません

「ひとりで製図対策を進めるのは不安」「他の人はどのくらいのレベルなの？」等、通信生には色々な不安があると思います。TACでは通信生にも担任制を導入し、課題発表後から2週間に1回程度のペースでオンラインスクーリングを実施します (Zoom)。他の受講生の答案を共有しながら作図やエスキスのポイント、ミスしがちなところを解説し丁寧に課題のフォローアップを図ります。



日程表は
WEBで公開
 【通信生担任】

一級 大屋 喜嗣
 二級 内藤 遼馬



質問メール

24時間いつでも質問できる！

疑問が生じた場合は、24時間いつでもメールで質問できる安心のサポートです。返信は3営業日程度を目安に、遅くとも1週間以内に対応いたします。

- ※一級総合設計製図本科生…25回
- 二級総合設計製図本科生…15回
- 一級・二級設計製図本科生…10回
- 一級設計製図早期講義…5回



自習室 **予約不要**

全国のTACで利用可能！通信生も利用OK！

講義の行われていない教室を自習室として開放しています。当コースの方は受講期間中、全国のTACの教室を自由にご利用いただけます。

※教室の使用状況によっては自習室として開放できない場合があります。予めご了承ください。



4. 早期講義カリキュラム等

■ 総合設計製図本科生 (早期講義12回 + 設計製図講義10回)

コース名	講義回数	学習メディア	通常受講料	再受講割引受講料
総合設計製図本科生	全22回	 教室講座 	¥440,000	¥308,000
		 Web通信講座 	¥363,000	¥254,100

■ 早割キャンペーン

22,000円OFF!
2024年11月末まで



TAC 建築士講座 一級建築士 総合設計製図本科生
2025年合格目標

早期申込で受講料が大幅割引!

2024年10月1日 - 11月30日

通常受講料より **¥22,000OFF!**

■ アンダー25 (25歳以下または学生の方)

22,000円OFF! ※早割キャンペーンとの併用OK

早割キャンペーン メリット

作図の学習をすぐにスタートできます(11月中旬～)

(その1) **作図の講義動画**を視聴できます！

○製図用具の使い方

○基礎製図

○作図実演(講義資料:作図手順の資料も付きます)

○超速作図法(1時間39分の驚異的なスピードで完成)

(その2) **作図練習課題**で課題練習ができます！

(その3) **事前作図練習教材**で什器、階段等のパーツ練習ができます！

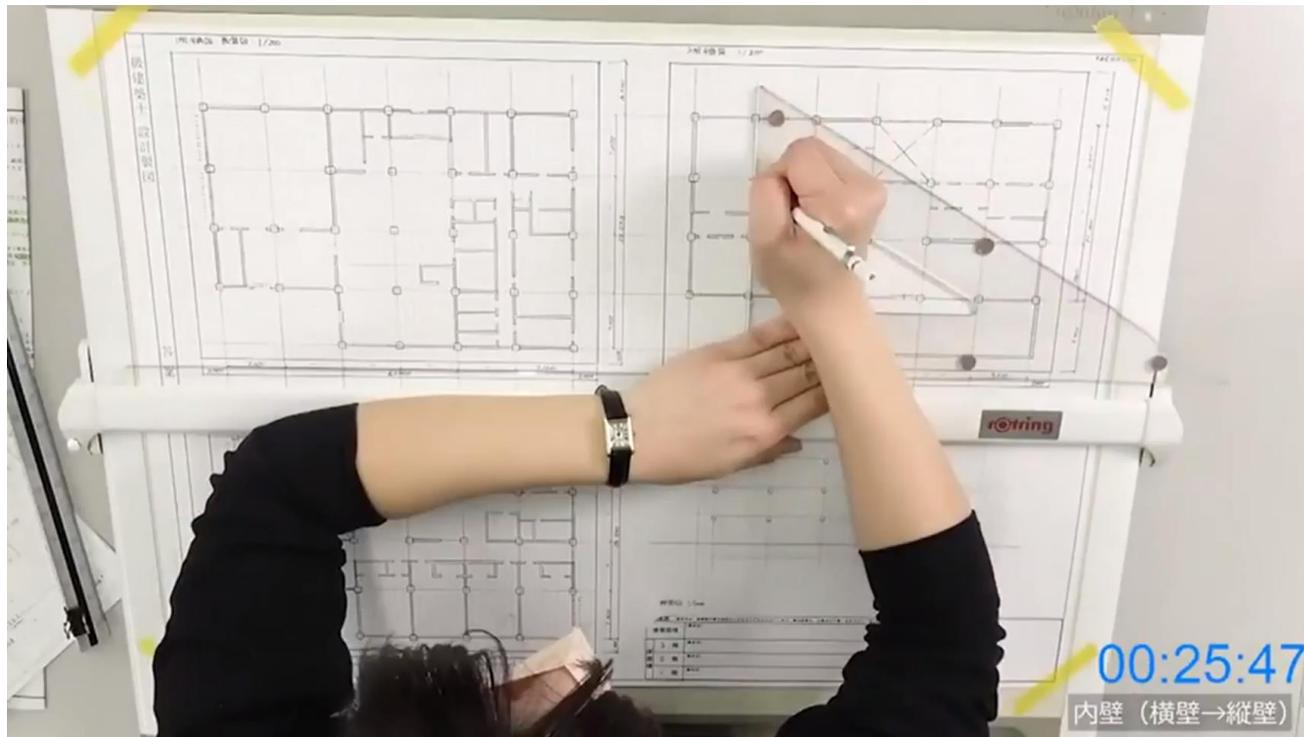
TACの作図動画

作図実演 動画



TACの作図動画

超速作図法 動画(1時間39分で完成)



TACが選ばれる理由①

令和6年もTACの課題は本試験の要素に対応していました

設計製図対策

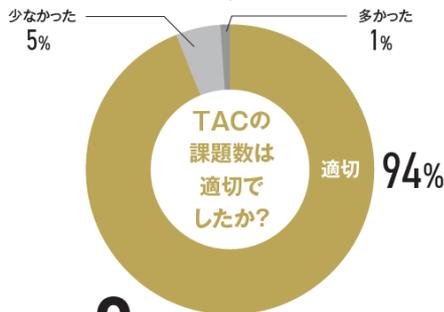
適正な量の 課題を提供

TACでは、ただ単に多くの課題を提供するのではなく、ポイントを押さえた「質」の高い課題を提供します。膨大な課題は、処理に追われることで反復がおろそかになり、消化不良を招きますが、厳選されたTACのオリジナル課題であれば、何度もトライし直すことができ、ひとつひとつの課題から合格に必要な実力や応用力を丁寧に身に付けていくことができます。

※2023年合格目標 一級設計製図本科生 本試験答案検証ヒアリングアンケート結果より(有効回答数94名)
※算出した数字の小数点第一位以下を四捨五入して表記しています。

2023年に設計製図の試験を受験した

TAC受講生に聞きました*



9割以上の受講生が
「適切」と回答!

CHECK

多くの課題は
必要ありません

2023年実施試験(令和5年度)もTACオリジナルの厳選課題で本試験に十分対応できていました。

一級建築士



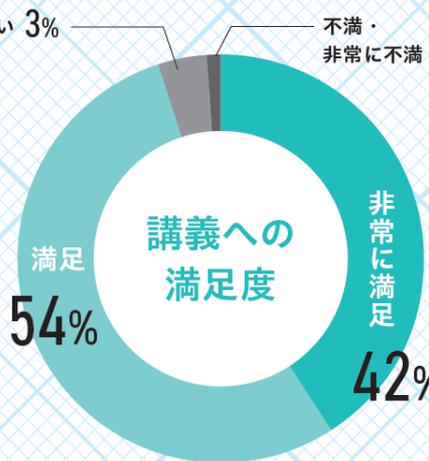
二級建築士



TACが選ばれる理由②

講義について、9割以上の高評価

95%以上の
受講生が
「非常に満足」・
「満足」と回答！



※2023年合格目標一級設計製図本科生、教室講座受講生の方を対象にアンケートを実施(有効回答399名、2023年11月30日現在)。

※[5 非常に満足][4 満足][3 どちらともいえない][2 不満][1 非常に不満]の5段階でアンケートを実施
※当割合は、「上位2段階の回答数」を「有効回答者数」で除して算出しています。また、算出した数字の、点第一位以下を四捨五入して表記しています。



- ▶ TACの講義は必要最小限かつ確でした。話は簡潔でわかりやすく、何が重要であるか、何を優先すべきかが明確です。(Kさん)
- ▶ メリハリのある講義が非常に良い。TACでは全ての拘束時間を勉強に費やすことができ、かつ、講義時間も厳守なので、充実度が高かった。(Yさん)
- ▶ わかりやすい解説と丁寧な添削で、前年の他予備校よりかなり有益な学習となった。(Iさん)
- ▶ 他予備校にも通ったが、エスキスのやり方が最もわかりやすく、解き方の流れを把握しやすかったのがTACでした。(Mさん)
- ▶ 私の職歴や受験歴などの情報や図面を見て、すぐに私の弱点を言い当ててくれた。それが合格につながったと思う。(Hさん)
- ▶ 先生が絶対に受かる！というモチベーションを毎回高めてくれたことが、とても大きかった。(Aさん)

TACが選ばれる理由③

受講料は大手スクールの

約 **50** %

TACの受講料のなかには、受講生の過剰な管理にかかるコストや営業マンにかかるコストは含まれていません。TACは優れたコンテンツと快適な学習環境を提供することに専念しており、そうしたスタンスが「適正な受講料」の実現につながっています。

どうしてこんなに低価格なの？

1 これが適正な受講料！

TACは建築士のみならず、公認会計士・不動産鑑定士・公務員等、多数の資格を扱っているからこそ、資格指遵の受講料の適正な価格を知っています。

2 営業マンや広告費などを
できるだけ節減！

受講生を募集するための経費が膨大になれば、受講料も高額にせざるを得ないでしょう。しかし、これは受講生の望む姿ではありません。余計な経費を減らし、良質な講座を提供することが、何より受講生の支持を受ける最良の方法であると考えます。

3 受講生を管理するための経費は、
できるだけ節減！

TACでは、受講生の出席促進や自習状況の過剰な管理など、本来の教務に直接関係のないサービスはいたしません。そうした経費は削減し、本来の教務に経費を集中させることが、真剣に学習する受講生のためだと信じています。

アンケートご協力をお願い

- ウェビナーを退出されますと以下の画面が現れます。
「続行」ボタンをクリックしてWebアンケートで
本日のご感想をお聞かせください。

ウェビナーにご参加頂き、ありがとうございます。
[続行]をクリックして簡単なアンケートにご協力ください。

下記の外部URLアクセスするとzoom.usから離れます
[https:// docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSesyjtj88cohm6GrD5JJFmV7bweBXHHWYaL5C3t1mwHL4uO9IA/viewform?usp=sf_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSesyjtj88cohm6GrD5JJFmV7bweBXHHWYaL5C3t1mwHL4uO9IA/viewform?usp=sf_link)

本当に続行しますか？

- 入力が完了しますと、ご登録のメールアドレスに、
本日の参加特典である「入会金免除券コード」が届きます。
入会金免除券が不要な方もアンケートで
ご感想をお聞かせください。